国語科

昨年度の取り組みと成果と課題

【成果】

- ・漢字や言葉の学習において、漢字検定や朝学習での取組を通し、継続的に指導できたことでどの学 年も目標値を上回ることができた。
- ・3学期のスピーチ大会を全校で行うことで、「話す・聞く」について、どの学年も目標値を大きく上回っている。

【課題】

・読み取ったことをもとに、内容の要約をしたり、自分の考えを書いたりするなど、書く能力の向上を 図る必要がある。「書くってたのしいね」を活用し、書く力を高めていく。日頃より、主語、述語、 修飾語を意識付けたり、要約の指導をしたり、書く力を養えるよう繰り返し指導を行う。

大田区学習効果測定の結果分析 達成率 (経年比較)			
	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	÷	∇	
第5学年	÷	Δ	Δ
第6学年	÷	Δ	Δ

学習状況の分析

○知識・技能

・どの学年も目標値を上回っている。また、全学年とも全国平均正答率に達している。漢字や言葉の学習は、朝の時間や漢字検定での取組が成果として表れている。我が国の言語文化に関する事項において、5年生が目標値を下回っている。短期的に取り組むだけでなく、国語の学習や読書習慣によって、ことわざや慣用句等に親しめるよう工夫を図る必要がある。

○思考・判断・表現

・5年生と6年生は目標値を上回っている。また、5年生は全国平均正答率に達している。読むことについては、4年と6年で目標値を下回っている。また、書くことについても、4年と6年で下回っている。初めて読む文章でも、要点を理解できるようにするとともに、基本的な文章を書き方について身に着ける必要がある。

○主体的に取り組む態度

・全学年とも主体的に取り組む態度が目標値を下回っている。本を読むことや言葉を知ることを楽し いと感じられるよう、授業を改善していく必要がある。

授業改善のポイント (観点別)

【 低学年 】

○知識・技能

- ・読書を通じていろいろな本に出会い、語彙力を高める。
- 「はじめ・中・おわり」の構成を意識し、書く事柄の順序を整理して書くように指導する。

○思考・判断・表現

- ・日記や感想文を書く時間を確保し、文と文のつなぎ方を考えられるように丁寧に指導する。
- ・時系列の順序や場面の様子や登場人物に注目しながら、大切な言葉や文を抜き出して読む習慣を付ける。
- ・「音読劇」「登場人物に向けて手紙を書く」など、児童の実態に応じて、言語活動を工夫する。
- ・誤字、脱字に気付くことができるように、読み返す習慣を付ける。

○主体的に取り組む態度

・読書活動を通じて、伝統的な言語文化に触れることの楽しさを実感させる。

【中学年】

○知識・技能

- ・辞書を身近に置き、疑問点は、すぐに自分で解決する習慣をつけられるよう指導する。
- ・「言葉のたからばこ」等を活用し、気持ちを表す語句の量を増やし、語彙を豊かにする。

○思考・判断・表現

- ・読書(特に物語)に励み、登場人物の行動から気持ちを読み取る力を高める。
- ・説明文では、長い文章を短くまとめる等、目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約することができるよう繰り返し指導をする。

○主体的に取り組む態度

・児童が意欲的に取り組めるような学習活動(敢えて全文を提示せずに物語を想像させる等)を設定 したり、見通しをもって取り組めるように目的を明確にしたり、授業の計画を工夫する。

【 髙学年 】

○知識・技能

- ・分からない語句が出てきたときには、すぐに辞書をひく習慣をつけられるよう指導する。
- ・短歌や俳句、慣用句や故事成語に親しめるよう日常的に指導する。
- ・週に1回程度、漢字の小テストに取り組んでいく。

○思考・判断・表現

- ・話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えられるよう指導する。
- ・ディベートではなく話し合いとなるよう、言葉を選ぶことや根拠を明確にすること、折衷案を見出 していくことを指導する。
- ・目的や意図に応じて書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にできるよう指導する。
- ・文章を書くにあたり、考えを形成し記述した後、文章を推敲する習慣を身に付けさせるようにする。 その際、どの視点で推敲を行っていくとよいか、観点を提示するようにする。
- ・授業の中で、繰り返し自分の考えをまとめて書いたり、読んだ文章を要約したりする機会を設ける。

○主体的に取り組む態度

・児童が意欲的に取り組めるような学習活動を設定し、見通しをもって取り組めるように目的を明確 にしたり、学習計画を工夫したりする。